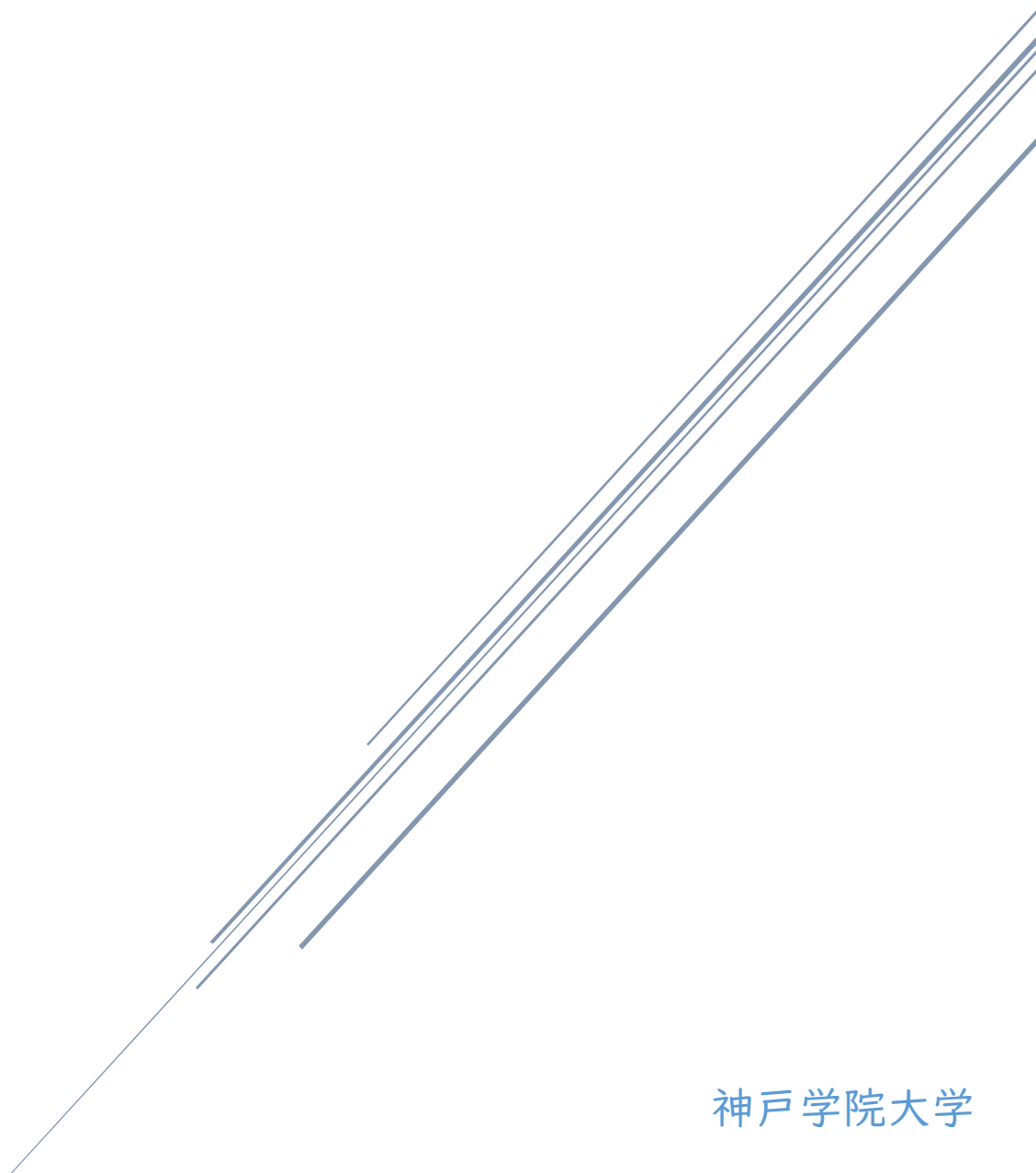


神戸学院大学授業アンケート 報告書

2025 年度前期



神戸学院大学
全学教育推進グループ

1.神戸学院大学授業アンケートについて

本学では、教員の授業方法の改善および教育力向上を目的とし、「授業アンケート」を実施しております。アンケート集計結果については、各学部等に返却するとともに、アセスメント・プラン（<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/assessment.html>）「授業科目レベル」で活用しております。また、各学部等の集計結果を公表しております。

2.授業アンケートの実施方法と内容

2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：各学部等が選定した科目（実施科目数：1,519 科目）

対象者：上記科目を履修している学生（延べ人数。対象者数：84,554 名）

2.2 実施日程

総合リハビリテーション学部、栄養学部、薬学部：2025 年 5 月 30 日（金）9 時 00 分～2025 年 8 月 7 日（木）23 時 59 分

法学部、経済学部、経営学部、人文学部、心理学部、現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、共通教育センター、スポーツサイエンス・ユニット、心理学研究科：2025 年 7 月 4 日（金）9 時 00 分～2025 年 8 月 7 日（木）23 時 59 分

2.3 実施方法

実施期間の該当科目授業時間中に原則的に実施。Web アンケートシステムで回答。

2.4 設問の概要

全学部全科目共通の設問 10 問（選択式、4件法）と自由記述。経営学部・薬学部については独自の設問を設けている。

2.5 教員へのアンケート結果提供方法

各教員が Web アンケートシステムで担当科目の結果を確認。

2.6 学生へのフィードバック

各教員が科目ごとに Web アンケートシステムで教員コメント欄に入力。学生は回答した科目の集計結果および教員コメントを参照可能。

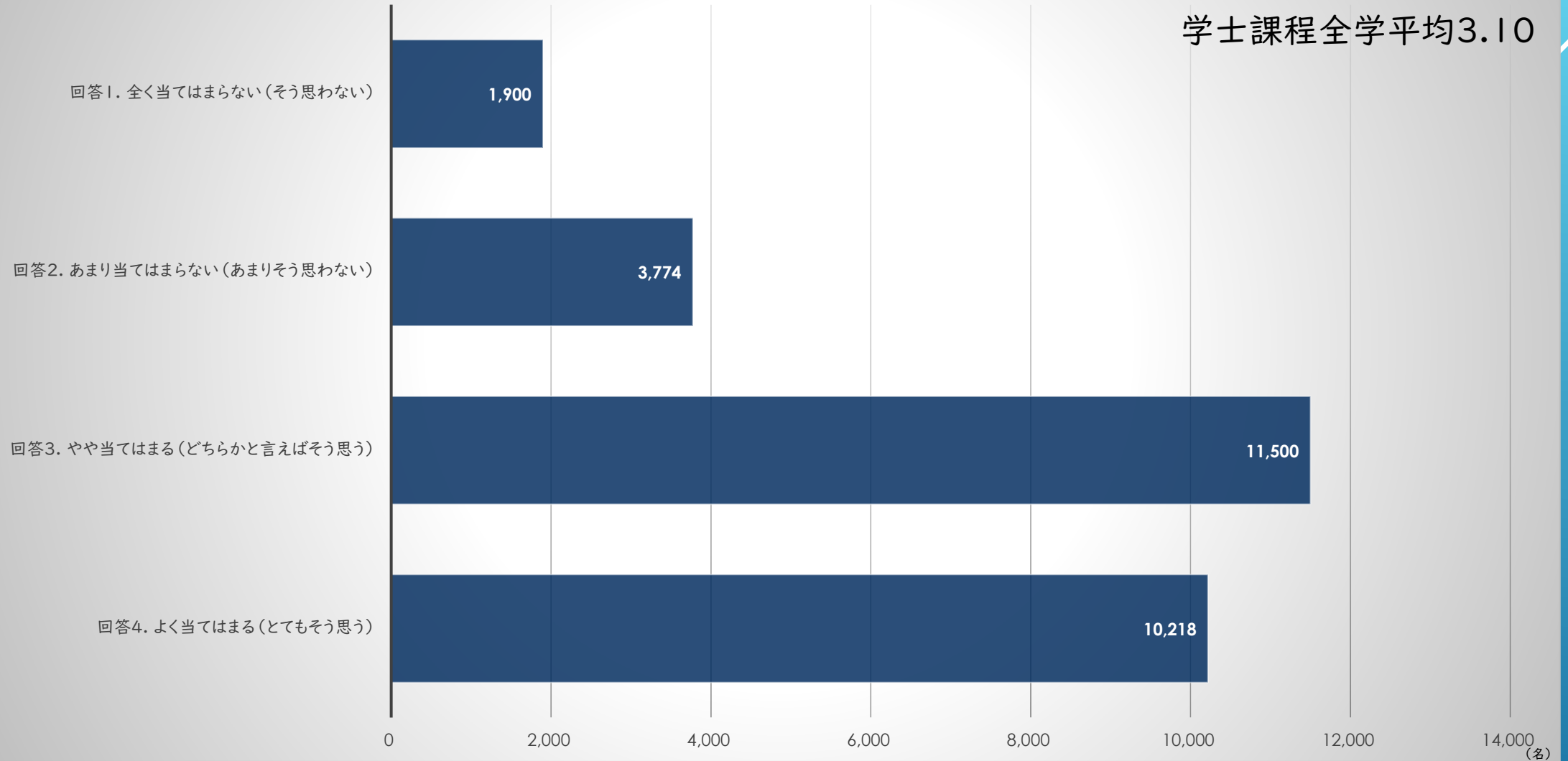
3.授業アンケートの結果

別紙「2025 年度前期授業アンケート（学士課程集計）」参照。

2025年度前期授業アンケート (学士課程集計)

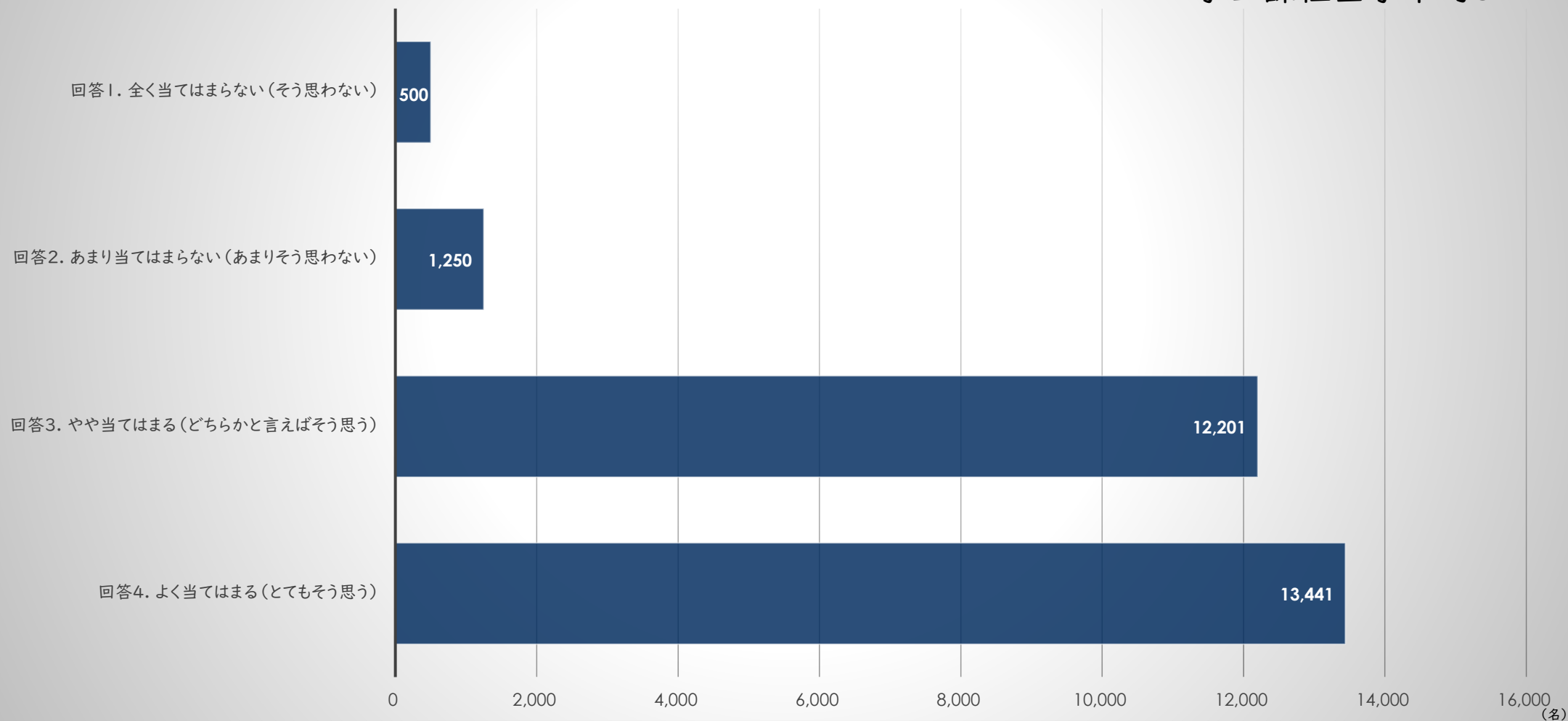
設問1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか

学士課程全学平均3.10



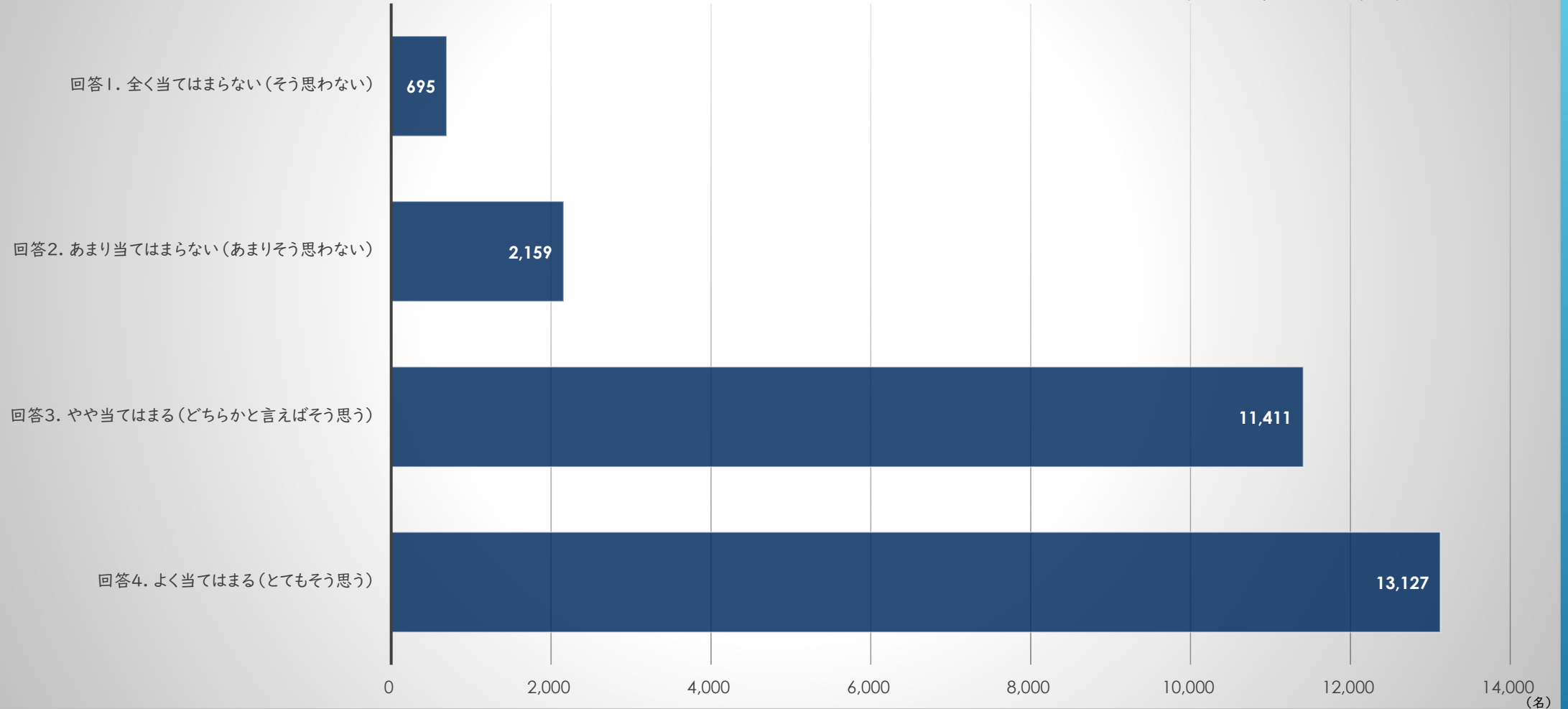
設問2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと
思いますか

学士課程全学平均3.41



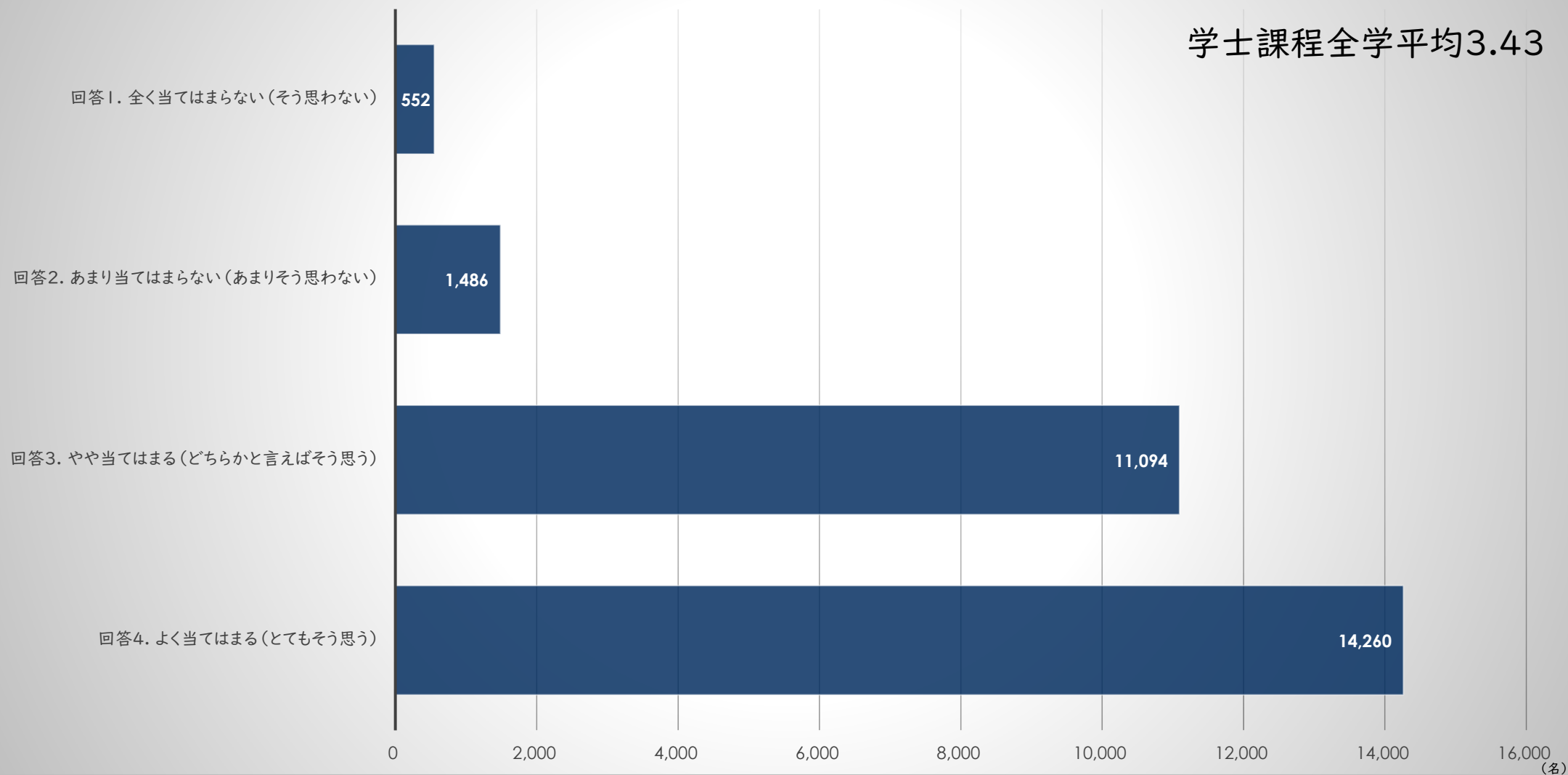
設問3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと
思いますか

学士課程全学平均3.35



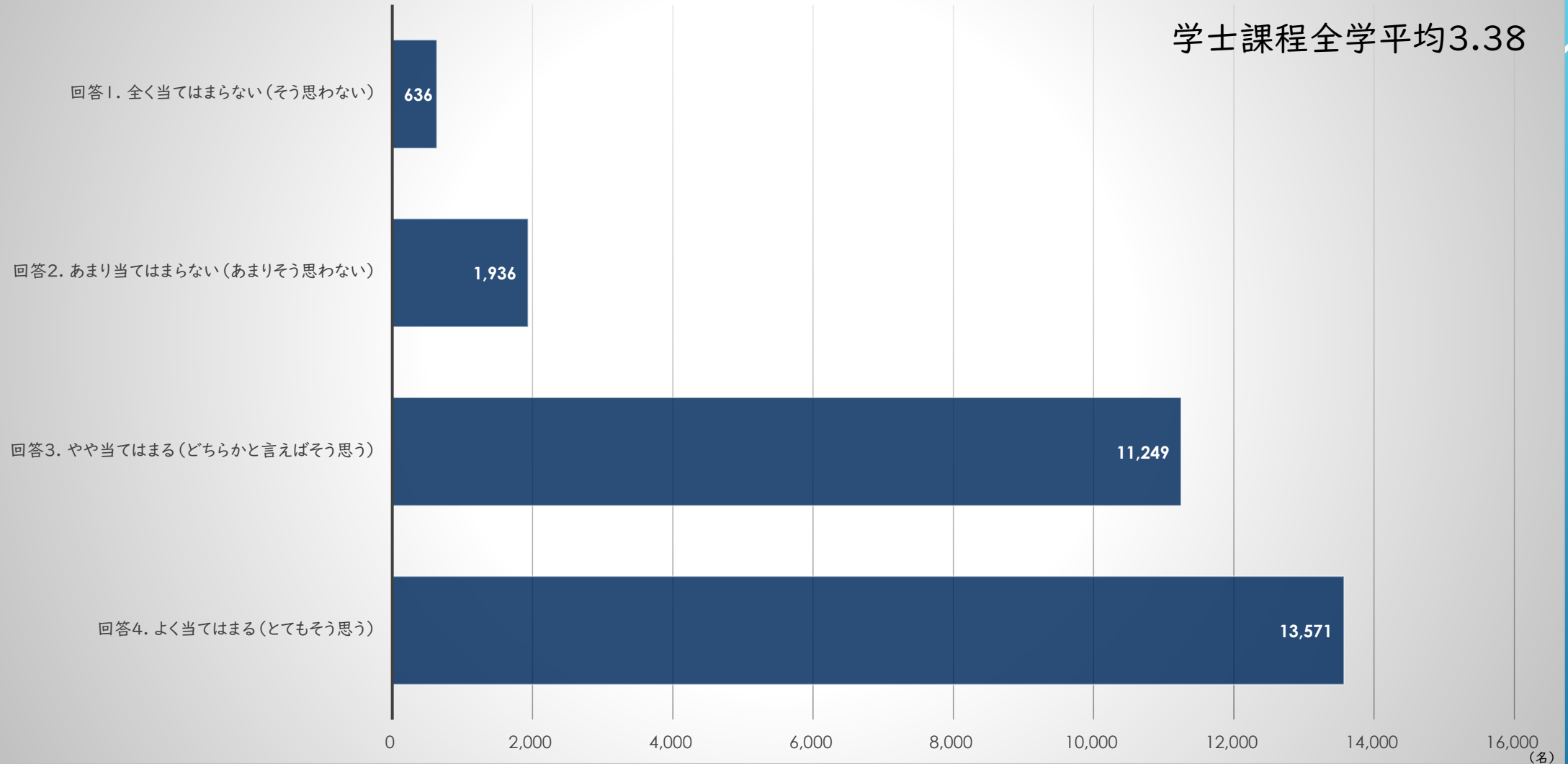
設問4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか

学士課程全学平均3.43



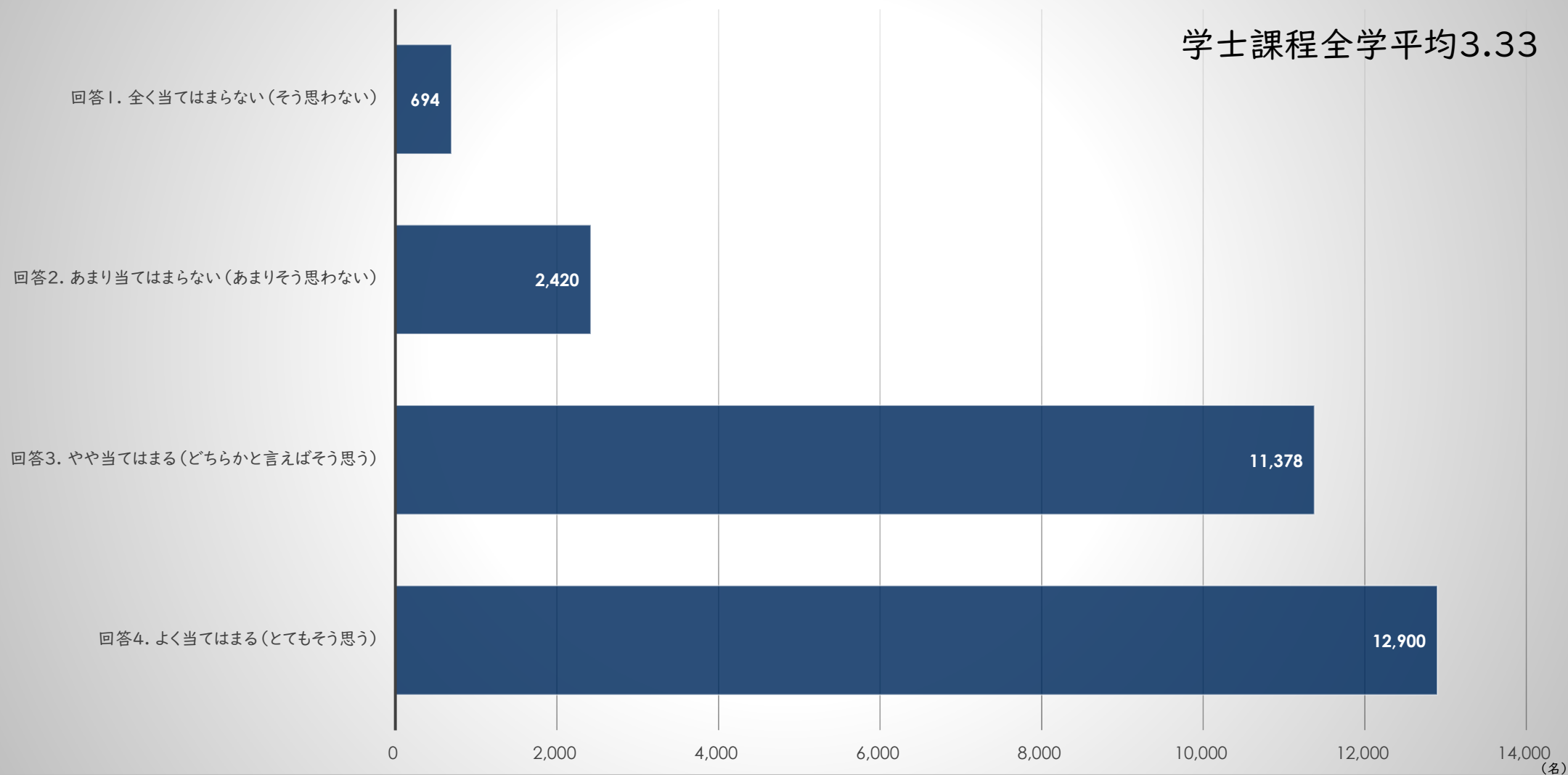
設問5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をされていると感じましたか

学士課程全学平均3.38



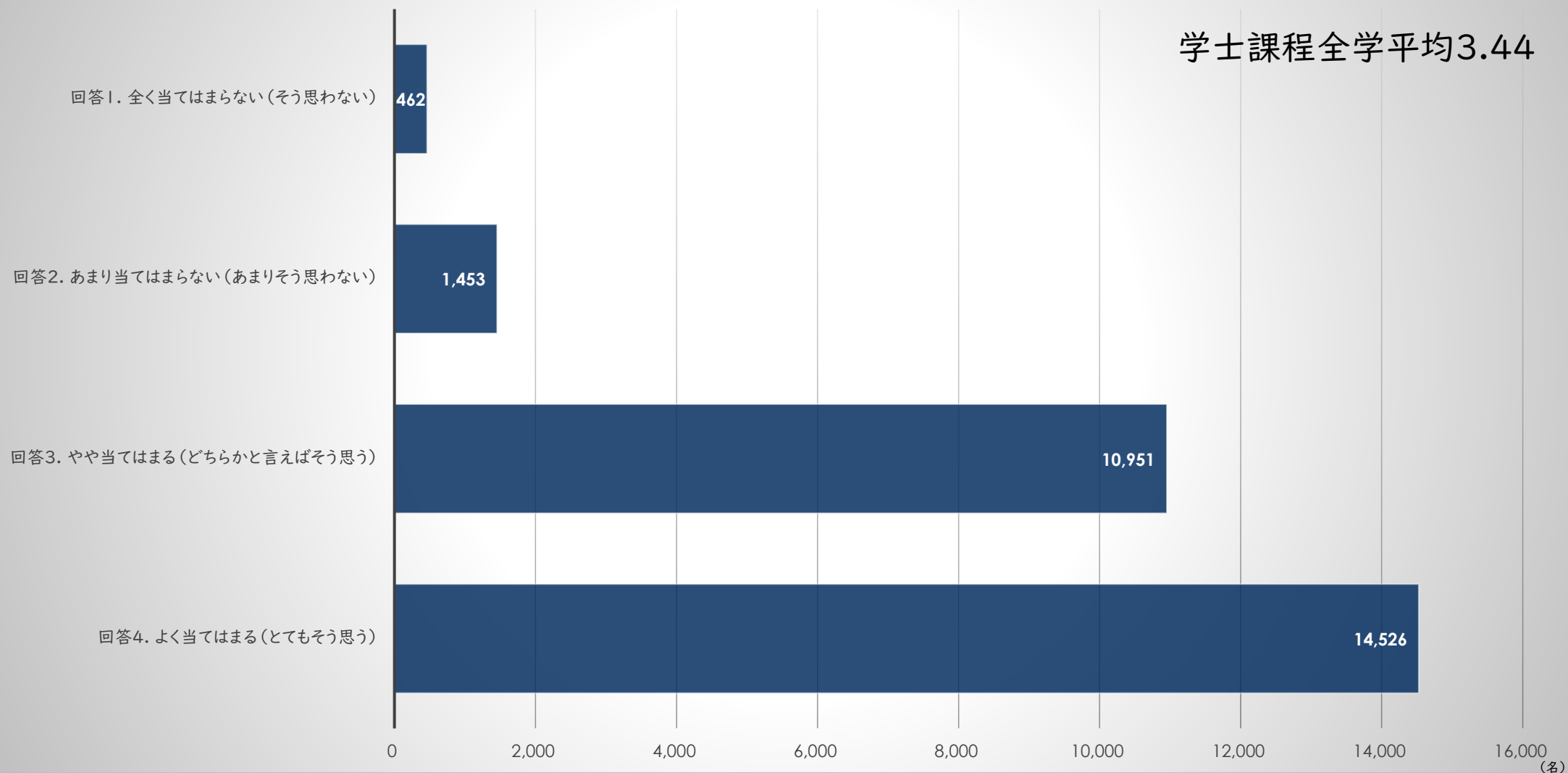
設問6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか

学士課程全学平均3.33



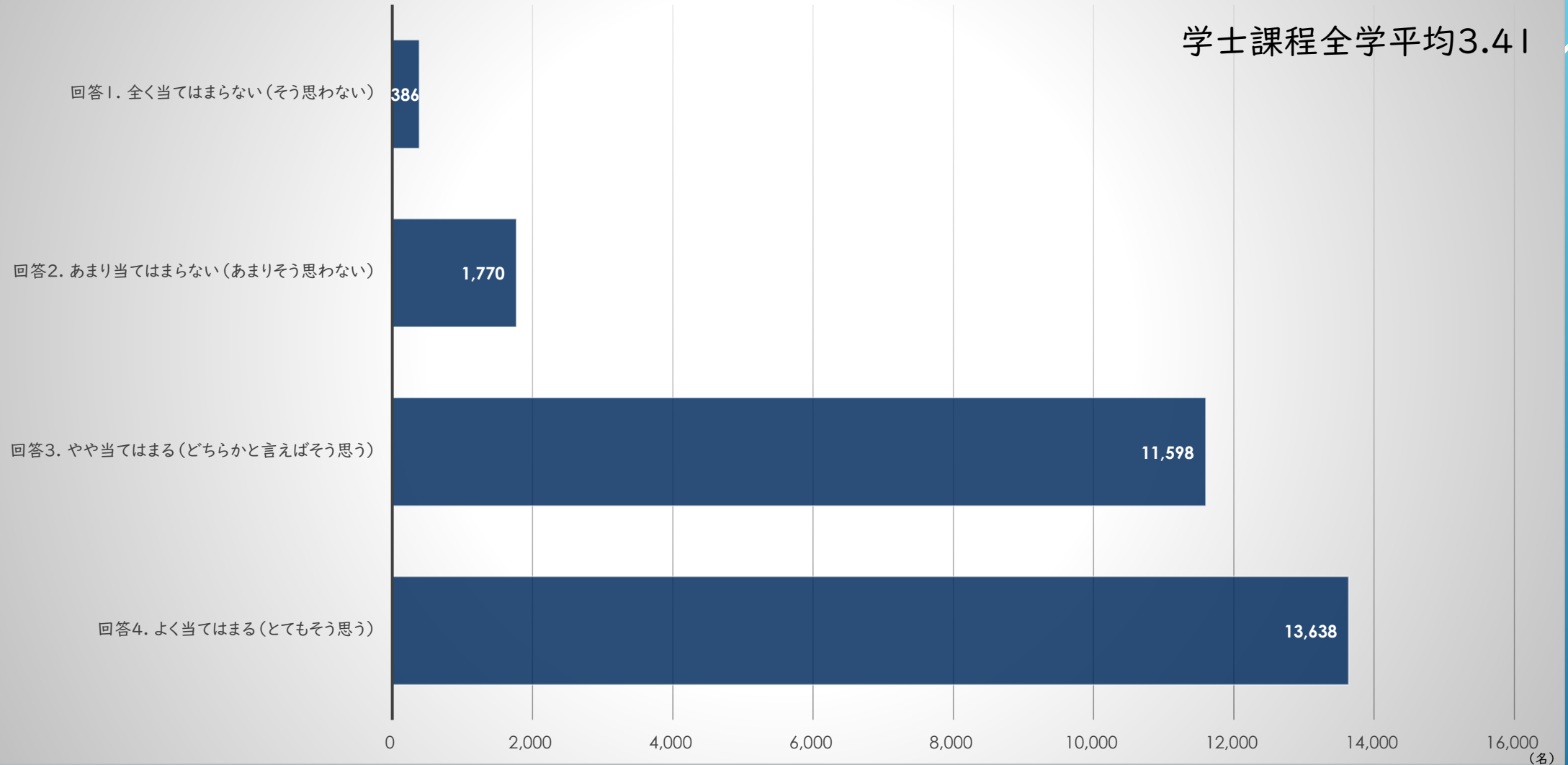
設問7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか

学士課程全学平均3.44



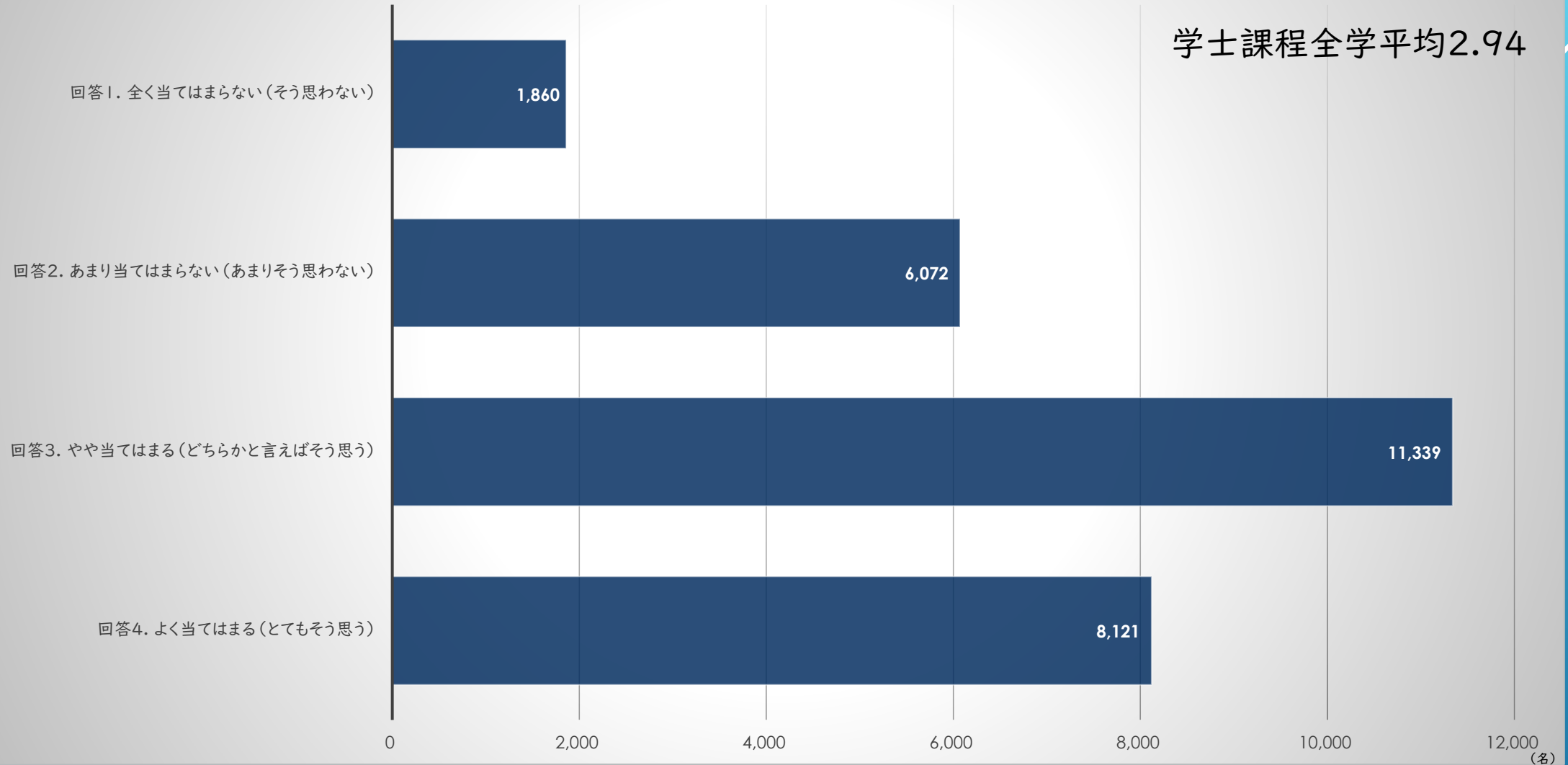
設問8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか

学士課程全学平均3.41



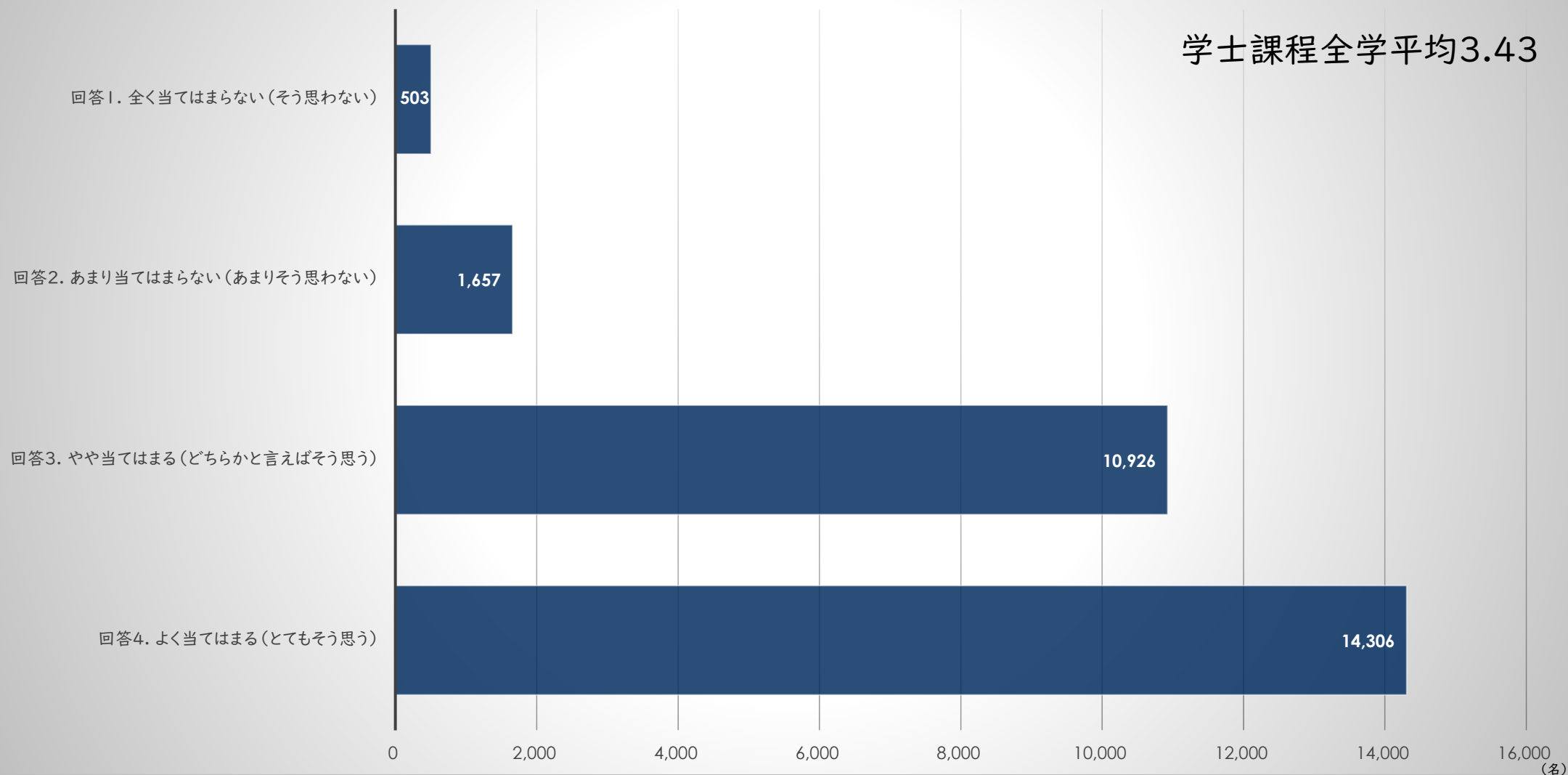
設問9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか

学士課程全学平均2.94



設問10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか

学士課程全学平均3.43



2025 年度前期授業アンケート報告書

法学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日 【実施科目数】70 科目 【回答率】17.1%
【結果の概要・分析】 法学部における 2025 年度前期授業アンケートの実施状況について、実施科目数は 70 科目、当該実施科目における履修者数は 7,893 名、うち回答者数は 1,348 名となっており、回答率は 17.1%であった。昨年度後期の回答率 10.5%と比較すれば、少し上昇はしたものの、大学全体での回答率は 32.43%であり、それと比べると法学部での回答者数は少なかったといわざるを得ない。また、法学部における昨年前期の回答率は 18.8%であったことも考えると、今回の回答率は決して上がったとは言い得ず、今後、アンケート実施期間内の授業時等において、教員から学生に対して、今まで以上により一層アンケート実施の周知を図り、アンケートへの回答協力を強く求めていく必要がある。 栄養学部は回答率 66.4%と相変わらず高い数値を出しておられ、総合リハビリテーション学部(43.7%)やグローバル・コミュニケーション学部(38.6%)も高い回答率であり、それらの高い回答率になっている学部の対応方針をより参考にしつつ、本学部においても回答率向上を図っていく必要がある。 また、アンケートの設問 11 自由記述欄における意見等では、授業が工夫されている、説明が分かりやすい等といった肯定的な意見が割合に多かったものの、逆に、説明が難しすぎる、黒板の字が小さすぎて見づらい、もっと大きな声で話してほしいといった意見等、改善を求める声も複数出されていた。回答率自体の低さ、及び、自由記述欄に意見や感想等を記した学生はさらに少数となっているため、その点は勘案してこれらの意見を捉えていかないといけないであろうが、学生の真摯かつ適正な意見に対しては、しっかりと耳を傾けて、学部として改善に努めていかなければならない。
【授業改善への活用方法】 昨年度と同様になるが、まずは来年度以降、アンケートの回答率をもっと上がるようにさらなる工夫をし、また学生への協力を強く求めていかなければならない。 そのうえで、次には各科目のアンケート結果や自由記述欄の意見等を、各担当教員が真摯に受け止め、とりわけ改善を求められている点について事実であるならば、その原因を教員各自でも改めて検討し、必要な場合には今後改善するように努めていかなければならない。 各教員が個々に検討・対応していただくだけではなく、この後期の教授会時にまたは別途機会を設けて、これらのアンケート結果の情報を共有し、学部教員全員で検討し、意見を出し合いながら、改善策を模索していきたい。

2025 年度前期授業アンケート報告書

経済学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日

【実施科目数】30 科目

【回答率】31.2%

【結果の概要・分析】

■アンケートの対象科目について

授業アンケート対象科目は、ディプロマ・ポリシーもしくはカリキュラムチェックに適した主要科目（例：演習・実習を除いた必修科目など）のみで、学部等につき 30%程度の科目数を目安、専任教員は 1 年間のうち 1 度は授業アンケートの対象となるように選定との要件から、30 科目を選定した。対象の科目数が他学部と比較すると少ないことについては、経済学部の基幹・リテラシー・コース科目のほとんどが「4 単位もの」であるためでもある。

■回収率の状況について

表1は、2021 年度からの授業アンケートへの回収率の状況をまとめたものである。

回答率は昨年度の同期比で、3.5 ポイントのアップとなった。前年度までの FD 委員による教授会等での繰り返しの周知、結果報告等により、学部内の授業アンケートに対する重要性の認識が高まったことや、学生への告知がチラシからデータ形式に変更になったこと等が要因ではないかと考える。また本年度前期はアンケート期間中に 1 回、経済学部長室から学生への周知徹底と授業内実施依頼のメールを配信した。マニュアルの URL、周知用スライド、対象科目一覧を添付してリマインドしたことも、細かいことであるが回答率の上昇につながったのではないと思われる。

表1 授業アンケート回収状況（経済学部）

	前期			後期		
	回答者数	履修登録者数	回答率	回答者数	履修登録者数	回答率
2021 年度	563	3,311	17.0	350	2,116	16.5
2022 年度	954	3,191	29.9	388	1,775	21.9
2023 年度	846	3,280	25.8	737	2,279	32.3
2024 年度	994	3,588	27.7	405	2,240	18.0
2025 年度	1077	3,455	31.2			

■設問への回答の結果

表2は、設問への回答の結果を示したものである。

10 の設問について「学士課程全学平均」（大学全体の平均）と「経済学部の平均」を見ると、設問1「履修前にシラバスを読みましたか」のみ、経済学部の平均が大学全体の平均よりも高かった。設問2「授業がシラバスに沿って進められましたか」は同じであった。

それ以外は、設問3「説明のわかりやすさ」、設問4「学習にふさわしい環境の提供」、設問5「理解のための工夫」、設問6「学生の理解度の把握」、設問7「新しい知見や考え方」、設問8「学生の積極的、意欲的授業参加」、設問9「予習・復習といった授業外時間学習」、設問10「将来役に立つか」のいずれも、学部の平均は大学全体を下回っていた。

設問10については、大学全体との差が1.4ポイントと最も乖離が大きかった。

表 2 設問への回答の結果(2024 年度前期・経済学部)

設問	経済	全学
1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか	3.25	3.10
2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか	3.41	3.41
3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか	3.23	3.35
4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか	3.35	3.43
5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか	3.28	3.38
6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか	3.25	3.33
7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか	3.33	3.44
8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか	3.31	3.41
9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか	2.85	2.94
10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか	3.29	3.43

一方、自由回答を見ると、「スライドなどを用いた説明のわかりやすさ」(設問3に該当)、「私語の注意等の学習環境」(設問4に該当)、「小テスト、練習問題、動画等による授業を理解するための工夫」(設問5に該当)、「QR コードの活用による理解度の確認」(設問6に該当)等、教員の様々な工夫が多く書かれていた。学生からの感謝の言葉も多かった。

総合的なものとして、「スライドや授業資料が非常にわかりやすく、簡潔にまとめられていた。今後役に立つであろう、有益な情報も得ることができ、この授業を受けることができ、本当に良かったと思う」「生徒の理解度をはかるため小テストの実施や追試についても対応してくださいました。授業の内容も配信してくださり諸事情で欠席しても安心して授業に取り組むことができました。また■■先生の講義があればぜひ受講したいです」等の回答があった。

【授業改善への活用方法】

・9 月の教授会において、回収率、各設問への回答結果を報告した。また自由回答の中から好評であった授業例を紹介し、2 名の教員から自身が工夫しているポイントについて発表してもらった。主な内容は下記の通りである。

・配布資料を穴明けにしていたが、穴明けの部分を減らして板書での説明を増やした。前回の復習を入れたことも「わかりやすい」「理解しやすい」という声になったのではないと思う。

・QRコードを用いた forms のアンケートを行い、自由記述も含めてリアルタイムで表示して共有した。課題も同様にしており、「理解度が確認できた」「意見交換ができた」という学生からの声になったと思う。また私語を厳しく注意するが「学習しやすい環境を作ってくれた」というコメントがあり、学生から静かな環境が求められていることを感じた。

今回は 2 名のみの発表で議論まではできなかったが、後期中に時間を作りたいと考える。

教授会では、授業アンケートの対象科目の担当教員にアンケート結果を閲覧、コメントの対応をしてもらうよう依頼した。

2025 年度前期授業アンケート報告書

経営学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日

【実施科目数】111 科目

【回答率】24.0%

【結果の概要・分析】

概要であるが、今回の前期の回答率は 9,249 人のうち、2,217 人(24.0%)であった。8,677 人のうち、1,042 人(12.0%)であった。全年度後期は 9,522 人のうち、1,961 人(20.6%)であったため、前回アンケートの回答率の 2 倍となっており、回答率に関して大幅な改善がみられている。教授会等における担当教員への周知および、学生への周知の強化が一定の効果をもたらしたといえる。ただし全学平均回答率 32.4%と比べると依然として低い水準であり、更なる改善が必要である。

内容に関する分析は以下のとおりである。

1) 平均値からの考察(数値)

- ・シラバスの事前閲読(設問 1):経営学部平均 3.21 は全学平均 3.10 を上回った。
- ・教員の説明のわかりやすさ(設問 3):経営 3.23 は全学 3.35 をやや下回った。
- ・学習空間の提供(設問 4):経営 3.35 は全学 3.43 をやや下回った。
- ・授業外学習(設問 9):経営 2.79 は全学 2.94 を下回った。

総じて、授業理解度や工夫への評価はおおむね全学並みであるが、授業外学習の実施度合いが低いことが特徴的である。

2) 記述からの考察

自由記述の内容をみると、まず肯定的な評価として、Moodle や OneDrive といった ICT を活用した教材提示が復習に有効であったという声が多く寄せられた。また、グループワークやペアワーク、小テストや課題配布といった取り組みにより学習内容の定着を図れたとの意見も多数見られた。一方で、否定的評価や改善要望も少なからず寄せられている。その中でも特に多かったのは、授業中に「うるさい学生」がいる場合の対応に関する意見であり、教員によって注意喚起の適切さに差があることが指摘されていた。また、授業レジュメが直前に提示されることが多く不便であるため、もっと早い段階で配布してほしいという要望もあった。さらに、講義が一方向的であるため、学生が手を動かす演習や参加型の学習活動を増やしてほしいという意見も見られた。加えて、教員の言葉遣いや説明が不十分であると感じる学生の声も一定数確認されており、授業改善に向けた課題として捉える必要がある。

【授業改善への活用方法】

- ・学生に好評であった ICT 活用の事例、グループワーク等の授業運営方法、学習環境の整備のあり方について、教授会、学部内 FD において情報共有及び意見交換を行い、授業改善に活用する。
- ・今後さらに回答率をあげるために、授業の最終回よりも早い段階の授業内でしっかり時間をとることを継続しながら、対象科目の選定も適宜見直ししながら実施していくこととする。

2025 年度前期授業アンケート報告書

人文学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日
【実施科目数】71 科目
【回答率】28.6%
【結果の概要・分析】 人文学部の前期授業アンケートの回答者数はのべ 1,339 名、回答率は 28.6%であった。なお、すべての設問で、昨年度より改善している。設問1の結果より、人文学部の学生はシラバスを事前によく読んで講義を選択している学生が多いことが分かる。教員に対する要望として、設問6(学生の理解度を把握できているか)にて他の項目と比較して、批判的な評価が多くあった。一方で設問9(授業時間外学習に取り組んだか)については、約4割の学生が「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えており、全学平均も下回ることから、この点には工夫の必要があると考えられる。人文学部の学問範囲が広いことは、学部の特長であると共に、幾つかの設問での批判的反応の一因となっているものと考えられる。 設問ごとの結果は以下の通りである。 ・設問1(あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか) 学部平均 3.35 で全学平均 3.10 を上回る。11%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。 ・設問2(あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか) 学部平均 3.45 で全学平均 3.41 を上回る。6%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。 ・設問3(あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか) 学部平均 3.43 で全学平均 3.35 を上回る。8%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。 ・設問4(あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか) 学部平均 3.47 で全学平均 3.43 を上回る。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。 ・設問5(あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか) 学部平均 3.44 で全学平均 3.38 を上回る。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。 ・設問6(あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか) 学部平均 3.37 で全学平均 3.33 を上回る。10%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。設問9以外では、不満のもっとも現れた設問であり、今後さらなる改善が必要である。 ・設問7(あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか) 学部平均 3.54 で全学平均 3.44 を上回る。95%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回答しており、多くの学生が授業を通じて新たな知見を獲得できていると考えられる。人文学部

の教育理念が、学生たちに伝わっていることの証左と考えられる。

・設問8(あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか)

学部平均 3.40 で全学平均 3.41 を下回る。全学平均を下回っているものの 93%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回答しており、大半の学生が意欲的に取り組んでいる。

・設問9(あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか)

学部平均 2.74 で全学平均 2.94 を下回る。41%の学生が「全く当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と回答しており、全学平均との差も大きく、かつ他の設問に比べて平均値が低い
ため、学生への指導に工夫の余地があるものと考えられる。

・設問10(あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか)

学部平均 3.36 で全学平均 3.43 を下回る。ただし、この設問で問われている将来という概念にはやや曖昧な点が認められるので、具体的な評価は避ける。

・自由記述欄について

非常にポジティブで教員に感謝を伝えたいコメントと、改善要望を伝えたいコメントとに分かれる。改善要望は具体的な説明が多く、学生がどのような講義を望んでいるのか分かる(内容より、授業やノートを取るための時間配分、課題や評価等の要望があった)ことから、担当教員もすぐに対応できるケースが多いと考えられる。

【授業改善への活用方法】

教員は個別に授業アンケートの結果を確認し、次年度以降の授業改善に活用しているほか、可能な場合はフィードバック(自由記述欄への返答)等を行っている。

2025 年度前期授業アンケート報告書

心理学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日 【実施科目数】28 科目 【回答率】31.8%
【結果の概要・分析】 回答率が 2024 年後期の 15.9%から大幅に増加し、30%を上回る結果となった。内容については、例年と同じく、授業の意義や満足度、望ましさに関する質問の回答については、肯定的（「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」）との回答であった。 特に、設問 2「あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか」、設問 4「あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか」、設問 7「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか」、設問 10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」については、「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」と回答した生徒が 100%近くになっており、シラバス、学習環境の提供、授業内容については高い評価がなされていると言える。 一方で、昨年度と同様に設問 9「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」に対しては、「1.そう思わない」「2.あまりそう思わない」と回答が 46%となっており、引き続き課題といえる。 自由記述では、QR コードを用いた授業内クイズやグループワーク、動画や写真を用いた授業資料、小テスト、Moodle での資料のアップロードなど、教員の授業の工夫に触れられている者が多かった。私語や出席カードの配布時間、マイクの音量などには一定数要望があった。
【授業改善への活用方法】 全体の評価としては概ね良好であるが、よりよい授業運営のため、アンケート結果を 2025 年 10 月 1 日の FD 研修会等で共有し、各項目の改善点について検討する予定である。さらに、学生から寄せられた自由記述に基づき、好評だった授業での取り組み事例などを学部内で共有し、議論する予定である。

2025 年度前期授業アンケート報告書

現代社会学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日 【実施科目数】83 科目 【回答率】21.4%
【結果の概要・分析】 現代社会学部では、前期セメスターに開講された 83 科目を対象に授業アンケートが実施された。昨年度前期と比べ、対象科目が 8 科目減少したが、それは回答者のプライバシー確保のために対象者が 10 名に満たない科目は除外したからである。今年度は、5,470 名のうち 1,171 名が回答、回答率は 21.4%であり、大学全体の回答率 32.43%よりも低い結果となった。その要因としては、現代社会学部が実施した科目数や対象人数が比較的多いこと、今年度から変更になったアンケートの実施方法を、教員に対して周知徹底できていなかったことが考えられる。 アンケートには 11 の設問があり、そのうち設問 1-10 は授業内容や進行に関する具体的な評価を問うものであった。これらの設問に対する回答の傾向は、設問 9 を除いて「3.ややあてはまる」「4.よく当てはまる」が全体の 8 割を超え、設問 7「新しい知見や考え方を知ることができましたか」は 3.46 であったことから、特に授業内容に対して高い評価がなされているといえる。 自由記述では、グループワークの導入やわかりやすいスライドなど、教員による創意工夫を評価する声が多く寄せられた一方で、私語のない静謐な授業環境や教員からの課題に対するフィードバックを求める声や、学生に対する高圧的な態度に対する不満も見受けられた。
【授業改善への活用方法】 ・アンケート回答率の改善に向けて、特に非常勤講師への周知方法の見直しが必要である。教務センターと連携して周知徹底する方途を模索する。 ・授業方法に対する肯定的な意見を分析し、インタラクティブな授業運営や柔軟な対応のためのツールの活用方法に関する研修の実施を検討する。 ・静謐な授業環境の維持するためには、私語を単に注意するだけでは不十分である。適宜短い休憩を設けるなどの柔軟な方法を取り入れる必要があるだろう。 ・ハラスメント研修において、学生に対して指導・指摘・注意する場面においてなぜ教員が威圧的になってしまうのか、また威圧的な態度が学生に与える影響について考える機会を設ける。

2025 年度前期授業アンケート報告書

グローバル・コミュニケーション学部

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日

【実施科目数】45 科目

【回答率】38.6%

【結果の概要・分析】

2025 年度前期の授業アンケート結果を分析すると、全体的に学生の授業に対する評価は非常に高いことがわかる。多くの設問で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答が 90% 以上を占めており、学生の満足度が非常に高い水準にあることが伺える。

評価項目から

- シラバスの活用について
 - 「シラバスを読んだ」と回答した学生は 75%であった。これは、他の多くの設問で肯定的な回答が 90%を超えた中では、比較的低い数値となっている。
- 授業内容の理解について
 - 94%の学生が授業の目標や進め方は明確であったと回答し、95%が教員の説明が分かりやすかったと回答している。学生が高い理解度を維持できていることがわかる。
- 学習環境について
 - 94%の学生が適切な学習環境が提供されていたと感じており、学生が学びに集中できる環境が整備されていることがわかる。
- 教員の工夫について
 - 94%の学生が、教員が授業内容を学生に理解させるための工夫をしていると感じており、教員の熱意が学生に伝わっている様子が伺える。
- 将来への有用性について
 - 95%の学生が授業で学んだ内容は将来役立つと感じており、キャリア形成への貢献度も高い評価を得ている。

自由記述から

自由記述からは、以下のような点が高く評価されていることがわかる。

- 実践的な内容（アクティビティ、リーディング、スピーキングなど）
- 教員の丁寧な説明と授業進行（分かりやすいサマリーや質問など）
- 多様なトピックへの言及（LGBTQ、TOEIC など）
- 学生の主体性を促す授業設計

一方で、特定のユニットの進め方や授業の細部に対する改善要望も少数見られ、さらなる工夫を求める意見も少数見られた。また、多くの項目で 90%を超える高い評価を得た中で、「シラバスを読んだ」という回答は 75%に留まった。授業の全体像や目標、評価基準を学生に確実に伝え、学習効果を最大化するため、シラバスの重要性を改めて周知し、その活用を一層促進する必要があると考えられる。

【授業改善への活用方法】

授業アンケート結果を受け、学生から寄せられた自由記述に基づき、好評だった授業での取り組み事例や、授業の工夫に関する要望、運営上の改善点について学部内で共有し、議論を行った。学部内で提案された意見は以下の通りである。

1. 実践的な学習機会の維持・拡充

- アクティビティやディスカッションの機会を維持しつつ、学生がより実践的なスキルを習得できるプロジェクトベースの学習をさらに推進する。

2. 多様な教材・トピックの継続的な活用

- 学生の知的好奇心を刺激する現代的なトピック（SDGs、DEI: Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）など）を積極的に取り入れ、動画や外部ツールなどの多様な教材を引き続き活用する。

3. シラバス活用の促進と授業計画の周知

- 授業初回にシラバスの重要性を改めて説明し、学生が授業の目標や計画を正確に理解した上で主体的に学べるよう、定期的に内容を確認することを促す。

4. 授業の魅力向上と成功事例の共有

- 学生が「他の人にも勧めたい」と思えるような、各授業独自の魅力や価値を明確化し、学生に伝えていく工夫を行う。FD などを通じて、成功事例を共有する機会を設ける。

5. 授業内での双方向性のさらなる追求

- 自由記述で見られた個別の意見に対応するため、授業中に学生の理解度を確認する機会を増やし、必要に応じて授業計画を柔軟に調整するなど、より双方向な授業運営を心掛ける。

以上

2025 年度前期授業アンケート報告書

総合リハビリテーション学部

【実施期間】2025 年 5 月 30 日～2025 年 8 月 7 日 【実施科目数】36 科目 【回答率】43.7%
【結果の概要・分析】 ・総合リハビリテーション学部としての前期授業アンケートの回答率は 43.7%であった。全学部の回答率の平均が約 32%で、本学部はその値を上回っているものの、割合をみれば高いとはいえない。授業によって回答率に大きな差があり、授業中にアンケートを実施できた科目とできなかった科目があったこと、また学生への回答依頼の伝達方法などが異なっていたことなどが要因として考えられる。 ・選択肢式の設問については、全体として「よく当てはまる」「やや当てはまる」といったポジティブな回答の割合が高かった。特に「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることではできましたか」「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」という設問においては、ポジティブな回答割合が全体の 97%を占めた。一方、「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」の設問については、「全くあてはまらない」「あまり当てはまらない」のネガティブな回答割合が 30%であり、授業内容への理解を深め知識の定着をより深めるために、授業時間外の学習時間を確保するための試みが必要であると考えられる。 ・自由記述の回答では、各教員の授業における工夫や配慮に気づき、「理解しやすかった」等の授業に対する好意的なコメントが多く見受けられた。特に、視覚教材を用いての講義やグループワークなどを実施した授業について触れている学生が多かった。一方、ごく少数であるが、「もう少し細かい説明が欲しかった」「グループワークの実施方法を工夫してほしい」といった感想もみられたため、より学生満足度の高い授業の実現のために継続的な創意工夫が必要である。
【授業改善への活用方法】 ・アンケート回答率およびアンケート内容について、総合リハビリテーション学部教授会にて共有した。 ・今回の回答率の平均は 43.7%であったが、全体の半数にも満たないため、本結果が学生全体の意見を反映できているとはいき切れない。授業アンケートの価値を高めるためにも、基本的にアンケートは授業中に実施することを会議内にて再度周知した。 ・設問に対する回答については、全体としては概ね良好な結果が得られたといえるが、「やや当てはまる」ではなく「よく当てはまる」の回答割合を向上させていく必要がある。視覚教材を使用した講義や、グループワークなどアクティブラーニングの取り組みが学生からのコメントで好評であったが、このような各教員の取り組みを各学科の会議等においても共有していく。 ・FD 活動において、研修会のテーマを検討する際の参考資料とする。

2025 年度前期授業アンケート報告書

栄養学部

【実施期間】2025 年 5 月 30 日～2025 年 8 月 7 日

【実施科目数】83 科目

【回答率】66.4%

【結果の概要・分析】

昨年度後期に引き続き、今年度前期も、一部のオムニバス科目や学外実習を除いた、専任教員および非常勤講師が栄養学部で実施するすべての科目（83科目）について授業アンケートを実施した。

実施方法は、昨年度同様に各講義・実習内にてアンケートを回答してもらう形式を採用した。具体的には、FD 委員が事前に準備した授業アンケートに関するパワーポイントスライドを、講義・実習内で提示し、5分間程度の時間を設けて授業アンケートに回答してもらうという統一した方法で行った。また、今年度前期は、実施時期を講義の最終回あるいはその1回前に限定せずに、講義回の間中以降に実施して、そのアンケート結果をもとに講義期間内に授業改善を行うことを促した。

アンケート結果は、実施科目履修者数（のべ人数）：4,137人のうち、2,746 人が授業アンケートに回答し、回答率は 66.4%となった。昨年度後期の 63.6%から約3%の増加にとどまったが、自由記述コメントの回答数が約 300 件と、大幅な増加がみられ、多くの学生の声を集めることができた。

具体的なアンケート結果については、「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方をすることはできましたか？」（3.49ポイント）と「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか？」（3.54ポイント）という学生の成長につながる設問項目において昨年度に引き続いて高い評価を得た。また、多くの学生からの個別のコメントがあり、「説明が丁寧で分かりやすかった」、「小テストやグループワークがあり理解できた」、「わかりやすいグラフ、イラストや図が書かれたレジュメがよかった」、「レポートのフィードバックがあり、理解が深まった」、「中間テストが複数回あることで理解が深まった」など好評価の声が多数あった。一方で、「教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか」、「あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか」、「あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか」という3つのアンケート設問については、全学平均を下回り、個別のコメントにおいても、教員の声の大きさや態度、講義の進行速度および難易度、レポートの評価基準のあいまいさなどに対する不満の声が一部みられたため、こういった声もしっかり検証し、授業改善へつなげていきたい。

【授業改善への活用方法】

授業アンケート結果について、学生から寄せられた自由記述のコメントに基づき、好評だった授業での取り組み事例を中心に学部内で共有し、後期の授業に活かしてもらうようお願いした。また、栄養学部では、教授会での議論に基づき、今年度前期より、講義中間にアンケートを実施し、その講義期間内に授業改善を行うという新たな試みを始めている。一方で、現在のアンケート回答システムでは、自由記述コメントが期末にならないと閲覧できない仕様となっており、今後の迅速な授業改善に向けた課題のひとつであることを学部内で共有した。

2025 年度前期授業アンケート報告書

薬学部

【実施期間】2025 年 5 月 30 日～2025 年 8 月 7 日

【実施科目数】162 科目

【回答率】28.6%

【結果の概要・分析】

授業アンケートの回答率の向上を目指し、今年度は授業時間内にアンケート回答時間を設けるよう、全学教育推進機構からの通知に加えて、教授会でも周知し、メールでの周知も行った。薬学部の 2025 年度の回答率は 28.6%であり、前年度(16.8%)よりも改善されたが、未だ高いとは言い難いため、回答率の低い科目を調査し、アンケート対象科目の設定の適切性などを検討してさらなる改善を図りたい。

アンケートの設問毎の平均値を全学の平均値と比べると、設問 1(シラバスを読んだか)、設問 9(時間外学習を行ったか)について全学平均よりも若干下回る値であり、設問 2(授業がシラバスに沿って進められたか)は全学平均よりも若干上回る値であった。他の設問はほぼ全学平均と同レベルであり、全体として薬学部の授業内容について、特段の問題点は抽出されなかった。薬学部独自の設問について、設問 13(授業の難易度は適切だったか)は概ね適切であったとの回答であったが、あまり適切ではなかったとの回答も一定数認められた。適切ではなかった場合の理由(設問 12)をみると、授業範囲が広すぎる、情報が多すぎるとの回答が多かった。これについては、学習すべき内容が薬学コアカリキュラムに定められているため改善は難しいが、より理解し易い授業に努めることが期待される。

【授業改善への活用方法】

薬学部では毎年度、各教員が担当科目の授業アンケートの結果や単位習得状況などを踏まえて自己点検・評価書(教員レベル)を作成し、その中で各教員が担当科目の振り返りを行い、必要に応じて改善策を検討・記載こととしている。また、各教員から提出された自己点検・評価書は薬学部内部質保証推進委員会において検証し、適切に自己点検・評価がなされているか各教員にフィードバックすることで実効性のある自己点検・評価となるようにしている。

2025 年度前期には、学部において授業改善をテーマとする FD を開催し、授業方法や試験方法について有効と思われる事例の紹介、情報共有を行った。各教員がそれら事例を参考にすることで、授業改善に役立つものと期待される。

2025 年度前期授業アンケート報告書

共通教育センター

【実施期間】2025 年 7 月 4 日～2025 年 8 月 7 日			
【実施科目数】共通教育 781 科目／スポーツサイエンス・ユニット 13 科目			
【回答率】共通教育 38.0％／スポーツサイエンス・ユニット 25.2％			
【結果の概要・分析】			
回答平均値			
設問	全学	共通教育	スポーツサイエンス
1	3.10	3.04	3.17
2	3.41	3.44	3.46
3	3.35	3.40	3.46
4	3.43	3.46	3.51
5	3.38	3.42	3.47
6	3.33	3.39	3.51
7	3.44	3.45	3.47
8	3.41	3.42	3.48
9	2.94	2.97	3.06
10	3.43	3.43	3.45
・共通教育科目 回答の平均値は、設問1を除き全学をわずかに上回っており、共通教育科目は、学生にとって必要な一定水準の授業を提供していると判断できる。設問1「あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか」という回答のみが全学平均を下回る数値になっているが、リテラシー科目等履修必修科目では学生は科目を選択する自由がないことが要因と考えられる。共通教育科目の特性上、多くの非常勤講師の授業がこのアンケートの対象となっている。平均以上の水準を保つことができていることは、個々の非常勤講師がしっかりと授業に取り組んでいることの証左であるといえる。 回答率は比較的高く、これも個々の教員の協力の結果ではあるが、2024年度前期(40.9%)よりも低下した。この点を改善できるよう検討したい。			
・スポーツサイエンス・ユニット スポーツサイエンス・ユニット科目は、すべての設問で平均を上回る回答となった。設問3～6は、教員の授業環境の維持、説明の工夫、学生の理解度の把握について尋ねるものであり、これらの設問の平均値の高さは、教員の授業に対する取り組みが反映しているものと思われる。 回答率は他学部と比較してもやや低い水準となっており、2024 年度前期(30.4%)よりも低下した。共通教育科目同様、この点も改善が求められる。			
【授業改善への活用方法】			
自由記述回答に基づき、共通教育全体で生かせる内容を検討して共有した。 ・グループワークやペアワークに好意的で満足度が高い傾向である。特に1年生の授業では、コミュニケーション力の向上や、人間関係構築に寄与できる点でも、積極的に機会を提供したい。			

- ・教員とのコミュニケーションが学ぶ意欲につながっていることがうかがえる。大人数講義では細やかな対応は難しいが、提出課題に対してのフィードバック等、可能な範囲で双方向性を高めていく。
- ・「スライド切り替えが早すぎる」「資料を配布してほしい」など、自分のペースで学習したいという希望も見られる。教材の提供については、それぞれの科目の特性や教員の意図などもある。学生に対して学習方法を伝えることを徹底させることも必要だろう。